

市民公開講座を開催します

「自由に生きる」 講師 高橋 まり 氏

日時:平成23年3月19日(土曜日) 午後2時～ 場所:プラザ都 樹海の間

講師プロフィール : 1965年 福島県いわき市生まれ

現在 福島県立医科大学医学部非常勤講師

著書 「バージンロード」

※末期がんの夫を看取った経験を活かして、全国で終末期医療の講演会を行っています。

* 緩和ケア依頼状況 (平成22年9月1日～平成23年1月31日現在)

泌尿器科1例、婦人科4例、外科4例、消化器科7例、計16例

依頼内容

疼痛緩和 2例、精神的ケア 5例、リンパ浮腫ケア 3例、その他 6例

* がん性疼痛緩和指導料の算定状況 (平成22年11月～平成23年1月)

診療科	外来	入院	算定率 (外来+入院)
消化器	6/6 (100%)	8/14 (57.1%)	14/20 (70%)
外科	9/25 (36%)	20/22 (91%)	29/47 (62%)
耳鼻咽	9/10 (90%)	11/14 (78.6%)	20/24 (83.3%)
泌尿器	5/6 (83.3%)	2/2 (100%)	7/8 (87.5%)
呼吸器	8/8 (100%)	13/16 (81.3%)	21/24 (87.5%)
内科	4/5 (80%)	15/17 (88.2%)	5/7 (71.4%)
産婦人	0	1/3 (33.3%)	1/3 (33.3%)
計			97/133 (72.3%)

●がん性疼痛緩和指導料：オピオイドが処方されている患者さんに対して月1回算定可能です。所定の用紙に必要事項を記入お願いいたします。オピオイド回診時、病棟にてオピオイド処方に関する相談と助言などを行います。よろしくをお願いいたします。

癌性疼痛に用いる新採用薬

がん疼痛治療剤(弱オピオイド)

トラマールカプセル 規格:

【成分名】トラマドール塩酸塩

【効能・効果】軽度から中等度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛

【用法及び用量】通常、成人にはトラマドール塩酸塩として1日100～300mgを4回に分割経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。ただし1回100mg、1日400mgを超えないこととする。

【用法及び用量に関連する使用上の注意】

1. 初回投与量

本剤を初回投与する場合は、1回25mgから開始することが望ましい。

2. 投与間隔

4～6時間ごとの定時に経口投与すること。ただし、生活時間帯に合わせて投与間隔を調整することも可能とする。

3. 疼痛増強時の臨時追加投与(レスキュー・ドーズ)

本剤服用中に疼痛が増強した場合や鎮痛効果が得られている患者で突出痛が発現した場合は、直ちに本剤の臨時追加投与を行って鎮痛を図ること。本剤の臨時追加投与の1回投与量は、定時投与中の本剤の1日量の1/8～1/4を経口投与すること。

4. 増量及び減量

本剤投与開始後は患者の状態を観察し、適切な鎮痛効果が得られ副作用が最小となるよう用量調整を行うこと。増量・減量の目安は、1回25mg(1日100mg)ずつ行うことが望ましい。

特徴:非麻薬性のオピオイド鎮痛薬で、麻薬製剤特有の管理は不要であり、また、効果と安全性のバランスの面から、非オピオイド鎮痛薬と麻薬性のオピオイド鎮痛薬との間をつなぐ、新たながん疼痛治療剤です。

※この2剤の詳細については、3月17日

(木)17時15分より2階講堂で開催する今年度の第5回緩和ケア勉強会で説明します。

経皮吸収型 持続性疼痛治療剤(強オピオイド)・・・ 1日1回貼付タイプ

フェントステープ 規格:1mg 2mg 4mg 6mg 8mg

【成分名】フェンタニルケエン酸塩

【効能・効果】非オピオイド鎮痛剤及び弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛(ただし、他のオピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する場合に限る。)

中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛

本剤は、オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する。

通常、成人に対し胸部、腹部、上腕部、大腿部等に貼付し、1日(約24時間)毎に貼り替えて使用する。

初回貼付用量は本剤貼付前に使用していたオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して、1mg、2mg、4mg、6mgのいずれかの用量を選択する。その後の貼付用量は患者の症状や状態により適宜増減する。

換算表

(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切り替える際の推奨貼付用量)

フェントステープ1日貼付用量	1mg	2mg	4mg	6mg
定常状態における推定平均 吸収量(フェンタニルとして) ^(B)	0.3 mg/日	0.6 mg/日	1.2 mg/日	1.8 mg/日

本剤使用 前の鎮痛剤	モルヒネ	経口剤 (mg/日)	≤ 29	30～89	90～149	150～209
	坐剤 (mg/日)	≤ 10	20～40	50～70	80～100	
	注射剤/静脈内投与 (mg/日)	≤ 9	10～29	30～49	50～69	
	オキシコドン経口剤 (mg/日)	≤ 19	20～59	60～99	100～139	
フェンタニル経皮吸収型製剤 (mg/3日)	2.1	4.2	8.4	12.6		

※注)フェントステープ8mgは、初回貼付用量としては推奨されないが、定常状態における推定平均吸収量は、フェンタニルとして2.4mg/日に相当する。